

令和2年度 第2回 上京区まちづくり円卓会議（まちの活力部会）摘録

日 時： 令和2年11月18日（水） 午後7時～午後8時50分

場 所： 上京区総合庁舎4階 区民交流スペース

出席者： 【委員】吉田委員，富家委員，坂本委員，舞鶴委員，益山委員

（欠席：川田委員，松本委員，松田委員）

【進行】天岡まちづくりアドバイザー，アルパック（渡邊）

【職員】長谷川広聴係長，山本課長（市プロジェクト推進室）

議題

（1）まちづくりの基本理念について

委員 基本理念の最後「守るべきものは徹底的に守り，変えるべきことは躊躇することなく改革する」と記載があるが，もう少しソフトな言い方が良いのではないかな。

委員 実現可能性も踏まえた表現の方が良い。

委員 下から5行目に記載のある「文化と絆，歴史・文化力と地域力という上京の宝物」とあるが，地域の皆様に理解していただくには，上京区の「特質とか特徴」といった言葉の方が良いのではないかな。上京区独自の歴史・文化は，他とは異なるものがあるので，それを強調する方が良いのかなと思う。

委員 「文化と絆」，「歴史・文化力と地域力」がおそらく対になっているかと思う。文化が歴史・文化力，絆が地域力と言い換えているのではないかなと思うが，それが少しわかりにくいので，もう少しわかりやすく書いてはどうか。

先ほどのご意見にもあったが，「守るべきもの」と「変えるべきところ」との線引きが難しい。伝統とされているものは変えるべきものなのかどうか，一義的に言えるものではないかもしれない。

西陣織について，確かに規模としては，過去30年くらいは厳しい状況であると思う。問題もあるが，新しく生まれている取組を重視するのか，問題と捉えるのか。課題は課題として認識すべきだが，むしろ，前向き，可能性，取組の芽といった，盛り上げていこうという方向につながる組み立ての方が良いのではないかな。

（2）将来像「賑わいを創出し，豊かさを実感できるまち」について

委員 方針がいくつかあると思うが，その中でも重要度に差があるのかな。

進行 いずれも重要であると考えている。

委員 上京には西陣織がある。

今後は，商売の仕方も変わっていくと思うが，付加価値を生むビジネスに変わること，アイデンティティに結びつく気がしている。西陣が元気になるのが，個人的には一番大事なのではないかなと思っている。歴史とかもあるが，これが一番目に見えるし，現役で仕事にもなる。かつデザイン次第でいろいろな展開を見せられるものだと思う。売り方も，今までの間屋を通してという構造もあるが，ICTが発展し，メーカー直産みたいなことも出てくると思う。これが一番，目立つし，わかりやすいのではないかな。

委員 とても共感できる意見である。私も着物が好きで，西陣織が好きなのだが，全国各地，織物の産地があるけれど，京都の西陣織が一番大きい。また，他の産地はとても公共交通で行けないところに産地があったりするが，西陣は，京都の中心部にあるというのが特徴的なこと。観光として，も

ちろん寺社仏閣があるが、産業が観光になる。ものづくりをされている地域であることが人を呼ぶというところがある。

進行 西陣織と観光はものすごく接点があるということか。

委員 趣味で観光ガイドをしているが、西陣織の工房めぐりは人気がある。普段見ることのできない部分を見ることができる。観光として、確かに需要はある。ただ、西陣の人からすると、見ておもしろいと言ってもらえるが、買ってもらえない。売り上げに結びついていない。仕事を邪魔しているだけというのに近い感覚を持っている。帯を買ってくれる人が来ない。上京と観光を結びつけるのなら、そこをうまく調整しないとイケない。

進行 工房めぐりをして、ちょっと買おうかなと思ったときに、帯はハードルが高い。小物だったら買えるというのはある。

委員 お客さんの反応を見ると、手間がかかっていることは実感してもらえている。糸染めから作業していくのを見ると、高いのもわかると。そこまで価値はわかるが、買うところまではあと一歩足りない。置いているところもあまりない。なかなかつながらない。

委員 まちの活力のテーマだけが、昔から住んでいる人だけではなくて、外から来る人、関係人口といった人たちも含めて盛り上げていこうというのが、方針としてある。着物を普段着ない人でも、何か買うようなものづくりにつなげる計画が出てきたらいいなと思う。

進行 取組例として、地域企業と若者のマッチング機会の創出等がある。今ある製品を若い人たちの感性で何かうまくできないかと感じる。今はそういうものがないのではないか。どうしても、帯はつくるのだが、もう少し使い勝手のいいものはないかとか、こういったプログラムで創出してくれたらありがたいないつも思う。なかなか難しいとは思いますが、やはり帯をはじめとする自分たちが守ってきたものを作りたいという思いが強いのだろうか。

先ほどの基本理念にもあったが、守るべきものを守る、変えるべきことは改革するといったことに当てはまるプロジェクトが生まれればよいと思う。

委員 上京の魅力は、歴史文化、産業、西陣織を含めて、いろいろあるが、上京区に人が集まってもらえる条件を作れば、需要が生まれ、小物でも数が売れば商売になるかもしれない。何か総合的な、人が集まってもらえる仕掛けを上京区が作ることが、重要ではないか。

私は立場上、歴史や文化のジャンルで活動しているが、なんといっても上京区には今の御所と平安時代の御所と2つある。上京区の人にはあまり意識していないが、外の人からすれば、上京区には2つ御所があることは素晴らしいことなので、それを強調して人の流れを作るのが重要ではないかと思う。

進行 人に来てもらって、人を流す取組。色々と見てもらう。

委員 西陣織会館とかはあるが、物を売るところが少ない。また、まち歩きも住民にとっては迷惑にならないか心配である。

委員 仕事の邪魔になることもある。休んでいるところ見ても仕方ない。

なぜ、西陣織が衰退したのか、バブルが崩壊したとか高いものが売れなくなったとか言われるが、多分そうではなくて、それより前から売れなくなる理由があった。30年ほど前のバブルの前から、子供のために着物を買っていた親たちは、嫁入り道具で持ってきているのだが、殆ど着ていない。箆笥に眠っている。その時に文化として着物を着ることが終わっている。自分の子供のときに、買わなくてもいいだろうとなっている。すでに一世代前から、バブル前から、そうになっている。

建築基準法によって町家が減ってきているという方もいるが、本当はそれより前に理由がある。悪くなる前に何かきっかけがあって、原因が蓄積されている。

そう考えると、帯を今買う人は増えない。どう頑張っても減っていくと思う。でも技術は確かにピカイチである。次に何を作っていくのか。着物はなくならないと思うので、作っていくことはで

きるが、それだけでは支えていけない。

委員 西陣の話を聞いていると、少しずつピントがずれてきているのではないかと感じる。実際、この地に住んでいる人はそう思うが、周りの人はそう思っていない。私は、西陣織を新たに定義して、今後どうしていくのかという基本的な部分の話をしないといけないと考えている。書いてある通り、今はまさしく衰退しつつある。帯は値段が高くて皆さん買わない、着ない、買い支える層もない。今後、一部の需要があるだろうが、今までの西陣の産業規模の維持は、難しい。先ほどのお話で、西陣織の技術で他の物を色々と売るとか、売っているところがない話になるが、結局、そういうことを織元が求めている。生地があるのを、他の業者が動かしてきた。西陣の人は土産物というイメージを持っていない。

だから、少しずつがあるので、この議論は難しいと私は思っている。

職員 西陣活性化ビジョンの内容について少し補足させていただく。ビジョンの中では、産業面では、西陣織をはじめとした伝統産業の振興を書いているが、西陣織を基の姿に戻すのはなかなか現実的ではないと考えている。この地域に息づいてきたものづくりの文化に根差して新しい産業を立ち上げていけないといけないという視点で、「クリエイティブなものづくり産業の創出」といことも方策の中で挙げている。

産業、商業の面では、ターゲット層に応じた活性化とか、ほんまものに触れる観光推進とか、4つの方策をあげている。ご意見として、西陣織ばかりではだめとか、やはり西陣織を盛り上げていく必要があるとか、両方の意見があると思う。ビジョンの中では、両方の意見を踏まえて進めているので、上京区としても、推進施策2、3で、伝統産業を中心とする部分と新たな部分とを両方書いていただいていると認識している。

委員 地域の活性化をいうなら、地域の人の意見、やる気を一度聞いてみることも大事。先ほどのギャップの話は多分重要なことだと思う。そこがクリアできないと、いくら周りが騒いでも、空回りになってしまう。そういうことは考えないといけない。地元の誇りもあるし、伝統を無視できない。

委員 重要なのは、今までの西陣をどうにかすることもあるが、この西陣の地域で、帯地をはじめ、様々なものを、作ってきた長い歴史がある。そういうDNAがあるから、そういうところで、新しい創作を本来は出していきたい。

この地域は歴史と文化だけではいけない。産業というものが無いと。

委員 これまでの技術を伝えていくこともあるし、新しいものづくりを世界へ、何か違う形で発展させていくこと。なんとかしたいと思うが難しい。

進行 作る技術も大切にして、それを使う文化とか使う場所を作っていくのにも必要。

委員 使う文化で先ほど話があったが、お嫁さんのときだけ使う着物がずっとタンスに入っていて、それをずっと着る機会がない。昔の話だが、着物にも普段着のものがあつた、そういう着物が一番花形の製品であつた。ただ、その世代から着物がタンスの肥やしになつていた部分もある。ライフスタイル的には、随分と前から実用的ではなかつたと思う。

でも、この大事なコンテンツを脇にして話をするのは違う気がする。技術、テクノロジーが受け継がれているのであれば、その人たちの方向性をコントロールして新しいことができると思う。

委員 現実問題として、西陣に関わっている人は、平均年齢が70歳を超えている。若い人は全然入ってこない。

進行 若い人で西陣織の世界に憧れて入ってくる人は、西陣織のシステムについていけない部分があるのではないかと。自分で作つたものを自分で売りたいという人が、問屋を通して売るシステムになかなかついていけない部分があるのではないかと。

委員 若い人は洋服、ドレスを持っている。着物はみんな持っていない。

進行 婚活なんかは着物を着る文化につながっていると思う。着物を着る場面が増えれば面白い。

委員 上京茶会とか、少し趣味がある人は参加するが、一般の人はなかなか行かない。この計画は、区民の人を対象にして考えているのか、来てくれる人が対象なのか。対象は区民であり、そういう視点が必要。

委員 いろんな西陣織の技術で物は作るが、商品の企画力や人材が弱いように思う。大学を出て西陣で働く人材もいない。これを解決するには、大学と地域の連携が必要。大学生は基本4年間いるので、そこで産学連携でアイデア出しとかをしていけば、何かできるかもしれない。学生は根付かないかもしれないが、大学がある限り、人は入れ替わっても組織は連携できる。地域と大学との連携は良いと思う。本当におもしろいベンチャーがでてきて上京で勝負することになるかもしれない。

委員 大学生がどう活躍できるかは、西陣、上京に限らない話だが、まだ試行錯誤の段階にあると思う。それが素晴らしいものづくりにつながるかは別にして、そういった関係を作って一緒に課題を考えていく取組はもっとあってもいいと思う。学生もそれを求めている感じがする。せっかくこれだけ文化が熱い地域で、4年間過ごして、一度も着物を着ないで卒業していくのはかなり残念なことだと思う。

委員 それは実感している。立命館大学と同志社大学の間にあるが、学生が全然来てくれない。

進行 成人式で女性は結構着物を着るので、その時西陣織を着ると少し嬉しさがある。地元に帰る人も多いかと思うが、上京成人式とか、4年で1回は着る機会があってもいいかもしれない。

委員 着付けは和装学院がある。大学が協力すればできるかもしれない。

委員 上京結婚式とかはどうか。婚活のカップルが上京で結婚式をあげるとかは面白い。

委員 大学を出て就職先が京都の上京で、そこで暮らす場所があって、子育てもしてくれたら良い話だが、その一步がない。大学を出たら大阪で働くことが多い。ここに仕事があるか、子供を育てられるか、それだけの何か産業があるか。それがないと絶対ここに住まない。婚活しても、結婚したあと滋賀に住んで大阪で働くことになってしまう。そのあたりのきっかけづくりは産学が連携すれば、自分たちの将来の働き先を作ることにもつながる。

進行 一番のゴールは住んでくれることだが、どれだけ関わり続けてくれるかも大事。少しハードルを下げて、学生時代に関わりがあったから、区外に住んでも年1回は遊びに来てくれるなど、何か関係を持ち続けてくれる、いわゆる関係人口があってもよいと思う。でも仕事がなく家賃も高いと住めない。

委員 学生が使える拠点がもっとあったらいいなと思う。

今は公共施設や小学校を借りたりしているが、もっと学生が自由に使える出入りできる場所が必要だと思う。どこの大学かに関わらず、多様な学生が集まれる拠点があればよい。

委員 商店街は、シャッターが閉まっているところが増えている。所有関係があるので難しいが、そういったコミュニティ作りに使われてもいいのではないかな。様々な問題はあと思うが。

委員 商店街にちらほら若い事業者が出店しているようだが、長く続かないようである。せっかく新しい力があるのに、エリアの中では一人の力は弱すぎて、全体の集客にはならない。これを行政が音頭を取って、一斉に足並みをそろえてやればなんとかならないか。個別に出店するので、みな息が続かないのではないかな。足並みそろえるのも大事。飲食店も人が減っているの、河原町、新京極の人をこちらに呼び込むくらいの勢いで仕掛けないと。

委員 単発だけでは本当に難しい。地域的に施設を作って中心にして、人を呼び込むとかしないと。例えば西陣織会館を何かに活用するとか。何か核となるものがいい。今は何か核となる施設があってもまちづくりが進んでいる。

委員 他の地区は、大きな観光地、清水寺とかがあってたくさん人が来るが、上京はそういう場所がない。そういう意味で、滋賀の「近江商人のまち」に倣って、上京型で、複合的なものを形成する。何か新しい発想を盛り込んでいくとか。何かできそうな気がする。それだけのものがある。

進行 皆さんは上京のシンボリックなもの言えば何を思い浮かべるか。

委員 いろいろある。歩けばお寺があるとか、何かある。すべて集積されているまちはない。何か核となるものがあれば、そこから人が上京区にながれてくる。そういうものが必要。

委員 公共インフラは必要。バスでは物足りない。路面電車を復活させるとか。

委員 交通手段も大事だが、来る目的がないと難しい。自転車であって楽しむとかもいいかなと思う。見どころはたくさんある。

【予定時間につき終了】

（３）部会での意見の総括

- ・まちの活力部会では、５つの方針について貴重なご意見をいただいた。
- ・最初に、５つの方針の中の比重とか重要性とかの話で、やはり西陣織の産業がひとつ大きな軸なのではないかということで、西陣を中心に議論いただいた。
- ・ものづくりの活性化という意味では、その歴史文化を活かした、西陣織の現在形を新しい産業として再定義していくことが重要ではないかという話題が出た。
- ・一方で、着る文化を促進していこうという話もだが、それを実際に活用するライフスタイルと一緒に地域の中でつくっていくべきとの話が出た。
- ・そのためには、昔から住んでいる方も含めた上京区の住民と、学生さんのような一時的に住んでいる方、その後、関係人口として上京区に戻ってきて活動する方など、多様な方を巻き込んだ取組も必要ではないか。
- ・具体的には、「上京 de 婚活」事業は大成功だった。
- ・それを更に発展させて、西陣織の着物を着た結婚式ができればいいとか、成人式の機会に学生に西陣織を着てもらおうようなこともいいのではないかと意見もあった。
- ・学生が、もっと地域に関わりたいと思っているけれど、どう関わればいいのかわからない、関係人口の方の集まる拠点がないという話もあった。
- ・その時に空き家を活用することと連携してはとの話も出た。
- ・様々な方が単発の取組はされており、様々な取組があることも分かったが、それがたくさんありすぎて、逆に上京区の核とかテーマとなるものが何なのかを外部に発信できている。
- ・外部の方、京都の区外の方を呼び込むにも、特定の施設というか、テーマのようなものを明確に打ち出し、そこにいろいろな方が関わるのができればよいのではないかと感じた。
- ・そうした様々な取組が、外部にも広がっていくことが望ましい。

以上